資料５

海部会報告について

1. これまでの海部会の動き

第１回地域部会（H23.1.24 開催）

○ 事務局が用意した矢作川流域圏の課題を踏まえ、今後検討したい課題を検討

勉強会などによる現状把握

○ 「海」の勉強会の開催により、「干潟の問題」など**流域圏が一体となった取り組みの必要性について共通認識**を図った。

○ 海地域は、「豊かな海づくり」を目指す以前に、**市民の干潟や海の問題への関心の低さや活動者の少なさも問題**としてあった。

第２回地域部会（H24.2.23 開催）

○ 海地域では、**干潟再生等の問題が一番大きな課題**としてあるが、すぐには取り組みにくい課題であるため、**まずやってみよう課題を４つの切り口で設定**するとともに**並行して市民意識の向上を図り仲間づくり**を行うことを確認。

○ また、海地域の活動においては切り離せない**海の民（漁協）や行政と協力しあいながら各課題の取り組みを進めていくこと**を合意した。

平成 24 年度より、提案を実行に移すための組織として「海部会ＷＧ」を組織化

2. 今年度の海部会ＷＧの運営方針

- 市民、関係団体、学識者、行政の有志が参加（山、川部会メンバーも参加可）
- まずやってみよう課題は、「ゴミ、流木調査」、「干潟の生き物調査」、「水辺のアクセス改善」、「干潟再生（ヨシ原・藻場再生)」の大きく４つの切り口とする。
- 現在、WG は小規模のため企画の自主運営が難しいため、「三河湾再生プロジェクト」や「漁協、市民団体等の主催するイベント」へ参加し、現在、海地域で行われている活動の目的や方法の調査や事例収集等を進めながら、市民の巻き込みや流域への展開を検討する。

3. 今年度期待する成果

（１）これまでの取り組みで得られた成果（６ページ以降参照）

- 干潟再生関連：ヨシ原再生の生き物観察会を通じて自然再生事業の必要性を確認できた。
- ゴミ、流木関連：市民会議海部会として奈佐の浜プレ活動へ参加し状況を確認できた。
- 生き物調査関連：漁協が市民団体等と連携して企画運営する観察会へ参加し、海への関心を高めるため市民が楽しめるイベントの運営方法の工夫について学ぶことができた。
- 豊かな海づくり：WG 準備会で学識経験者と意見交換を行う中で、「干潟再生」や「生き物調査」において豊かな海を示す一般的な指標を設定することは難しいことが分かった。

（２）今年度期待する成果

- 課題の取組みを通じ、矢作川流域圏内のみならず**流域圏から海でつながる影響範囲で起きている事象や様々な活動団体の活動状況を把握**することで、流域圏内における海地域の活動の活性化に寄与する**新たなネットワークの開拓や課題解決のヒントを発見**したい。
- 「答志島 奈佐の浜の漂着ゴミ」清掃が東海３県で連携する大きな動きを見せ始めている。溜まったゴミや流木を３県連携によって片付けるだけでなく、**矢作川流域圏において元を絶つ意味で山、川（里）、海の各地域がどうあるべきか、どう連携すべきかなどを今後、流域一体で検討**していきたい。（参照ｐ．８～１０）

4. 運営方針説明資料

(1) 海部会ＷＧの設置目的

□ 海地域で関係する市民、関係団体（漁協を含む)、学識、行政等が連携して取り組むことを開始した４つの課題の実行体制として「海部会 WG（ワーキング)」を組織し、海地域で展開される様々な活動に参加しながら各団体との連携を深め、各活動への理解を深めることや、につなげていく方策を考えていくことを目的とする。

(2) 開催計画（案）

第１回	４月２１日	ヨシ植え参加（川部会と連携）
	５～６月	海地域で実施されるイベント等の調査（連携先調査）
	６月９日	「奈佐の浜プレ調査」市民会議 海部会 井上部会長が参加
第２回	７月５日	「WG 準備会」話し合い
第３回	７月７日	三河湾再生プロジェクト「海の観察会」参加
－	７月 21 日	三河湾再生プロジェクト「海の観察会」事務局にて情報収集
第４回	８月 12 日	アクセス改善調査（矢作川河口部～東幡豆エリア）
第５回	９月８日	答志島「奈佐の浜プロジェクト」への参加
第６回	10 月（時期未定)	出水・流木漂流が見られる場合に流木調査
第７回	11 月（調整中)	座学・話し合い（企画中）
第８回	12 月（調整中)	活動総括、勉強会の企画等の話し合い（予定）

※その他、海地域で様々取り組まれている活動情報に関する調査を行います。

(3) 運営内容

- 基本的にＷＧの進行については、地域部会座長・副座長が実施する。
- **「干潟再生」と「生き物調査」については、当面、取り組み状況の情報を蓄積し、流域圏懇談会としてどのように係われるかを考えていく**ものとする。
- 「流木」については、出水によって様々な場所への漂着が確認された場合に、矢作川水系において各河川管理者や市民団体、港湾管理者、港湾利用の漁業者等と**速やかに一斉調査できる体制や調査様式を検討**する。⇒（例）「流木調査マニュアル(案)」
- 「アクセス改善」については、８月の多様な水辺利用のある時期に**調査を実施、具体的課題と解決策を検討**していく。⇒利用状況と改善提案を MAP に整理

海地域の目標	流域圏でつくる「**親しみやすい豊かな海**」の実現
実現方法	・４つの課題の取組みを通じた「**仲間づくり**」 ・まずやってみよう！から始める「**課題**」の取組みの発展、活性化

課題	①干潟・水辺のゴミ、流木対策	②干潟の生き物調査	③干潟・水辺のアクセス改善	④干潟再生（ヨシ原、藻場）
活動の発展イメージ	・流域圏懇談会と三河湾全体の取組みとの連携の開始 ・市民団体等の活動状況把握、海の民（漁協等）との連携（仲間づくり） ↓ 将来的に流域圏（山、川、海）全体で取組み実施	・市民団体等の活動状況把握、連携強化（仲間づくり） ・流域圏海地域各所で市民の海への関心を高める取り組みを展開。 ↓ 市民、漁協等の関係団体、行政等の WIN・WIN な関係性構築	・市民にとって身近な空間として心理的、物理的な距離の短縮のあり方調査 ・市民参加による計画提案（官民連携の推進） ↓ 将来的に流域圏での市民利用や活動団体増加	・官学民相互の情報交換 ・市民団体等の活動状況把握、海の民（漁協等）との連携（仲間づくり） ↓ 将来的に流域圏（山、川、海）全体で取組み実施

海地域の問題

上下流問題	・上流から砂や栄養塩は欲しいが、ゴミや流木には困っている。 ・矢作川流域圏の海地域では、あまりゴミは目立たないが、出水後の流木や三河湾内の別の場所で困っている。
人材・情報不足	・山や川とくらべて海地域で活動する市民団体が少ない。 ・何が市民によって豊かな海なのかを示す目標的な指標が明らかになっていない。
海との乖離	・様々な理由から市民は海から遠のいてしまった。 ・海地域の活動者が増えるようにもっと市民に海に親しんでもらいたい。 ・漁協の協力でさらに親しみやすい空間にしたい
喪失した原風景	・矢作川のヨシ原は、40～50 年前と比べ面積が半減した。 ・埋め立てによりアマモなどの藻場や浅場干潟が減少した。

課題への対応で将来的に目指す内容

①干潟・水辺のゴミ、流木対策

清掃イベント等を通じ、三河湾のゴミや流木の状況を把握し、矢作川流域（山、川、海）が連携して対応する必要性を流域市民全体が共通認識を持ち活動につなげる。

②干潟の生き物調査

市民の日常的なふれあいの機会を増やし、海地域の問題への関心を高める。
海地域において市民、漁協等の相互の利益につながる市民活動を活発にしていく。

③干潟・水辺のアクセス向上

市民が身近な空間として干潟や河口部の水辺へアクセスするための物理的、心理的、制度的な障害や利用ニーズを明らかにし、改善を図る。

④干潟再生（ヨシ原、藻場再生）

干潟におけるヨシ原再生の取組みへの参加や藻場再生活動の情報収集・発信によって、流域圏内においても再生に向けた市民活動を活発にしていく。

【海部会提案補足資料】

（１）ゴミ・流木調査

○　伊勢湾全体の問題にもつながるゴミ・流木をキーワードに下流域（海）から上流域（川、山）に漂着ゴミの実態に関する情報や連携の必要性を発信していく。

○　連携した活動に先立ち、まずは「流木」については、出水によって様々な場所への漂着が確認された場合に、矢作川水系において各河川管理者や市民団体、港湾管理者、港湾利用の漁業者等と速やかに一斉調査できる体制や調査様式を整え、各地域の現状把握についての準備を開始する。(→（例）「流木調査マニュアル(案)」)

■検討体制：矢作川支川を含む河川管理者、港湾管理者、港湾利用者、海部会メンバー 他

■WGでの実施計画については未定（企画調整中の１１月などでの実施は可）

■検討内容：漂着流木の調査方法・様式、調査体制　など

図. 様式検討の参考資料「河川ゴミ調査マニュアル（平成 24 年 3 月 国交省）」

（２）生き物調査・干潟再生

○　「干潟再生」と「生き物調査」については、当面、海地域で取り組まれている様々なイベント等の情報を蓄積し、流域圏懇談会としてどのように係われ、連携によって様々な課題を解決できるかを考えていく。

■海地域で実施予定のイベントについては、後述の 5.（5）その他 参考資料　を参照

（３）アクセス調査

> ○　「アクセス改善」については、８月の多様な水辺利用のある時期に調査を実施、具体的課題と解決策を検討していく。⇒利用状況と改善提案を MAP に整理

■調査計画（案）

※以下は、調整中の案で今後、行程及び企画内容が変更となる場合があります。

海地域部会では、課題の一つとして、市民が日常生活の中で、水辺・海辺から離れた状況が発生している事から、「水辺のアクセス向上」を行い、海や川を日常的に意識していただき、課題改善につなげる事を目標にしている。

今回は、その第１回として、下記のとおり、大潮時の日曜日に矢作川河口部と海辺を巡り、利用状況やアクセスの課題等について、調査を実施する。

１．目　的：水辺アクセス改善調査
２．実施日：平成２４年８月１２日(日)　１０：００～１７：００
３．集合場所：一色さかな広場　１０：００集合
　　http://www.sakanahiroba.com/access.html
　　公共交通：名鉄西尾線　吉良吉田駅　に９：３０集合
４．参加者：流域圏懇談会参加者
５．申込み：事務局へ、８月７日(火)までに氏名を報告してください。
６．移　動：マイクロバスを使用予定
７．昼　食：一色さかな広場(各個人で)
８．準　備：水に入れる服装、着替え、帽子、飲み物、等

図．干潟の利用状況及びアクセス性等に関する調査全体ルート（案）

図．流域圏の水辺・干潟の魅力、使い勝手等を調査

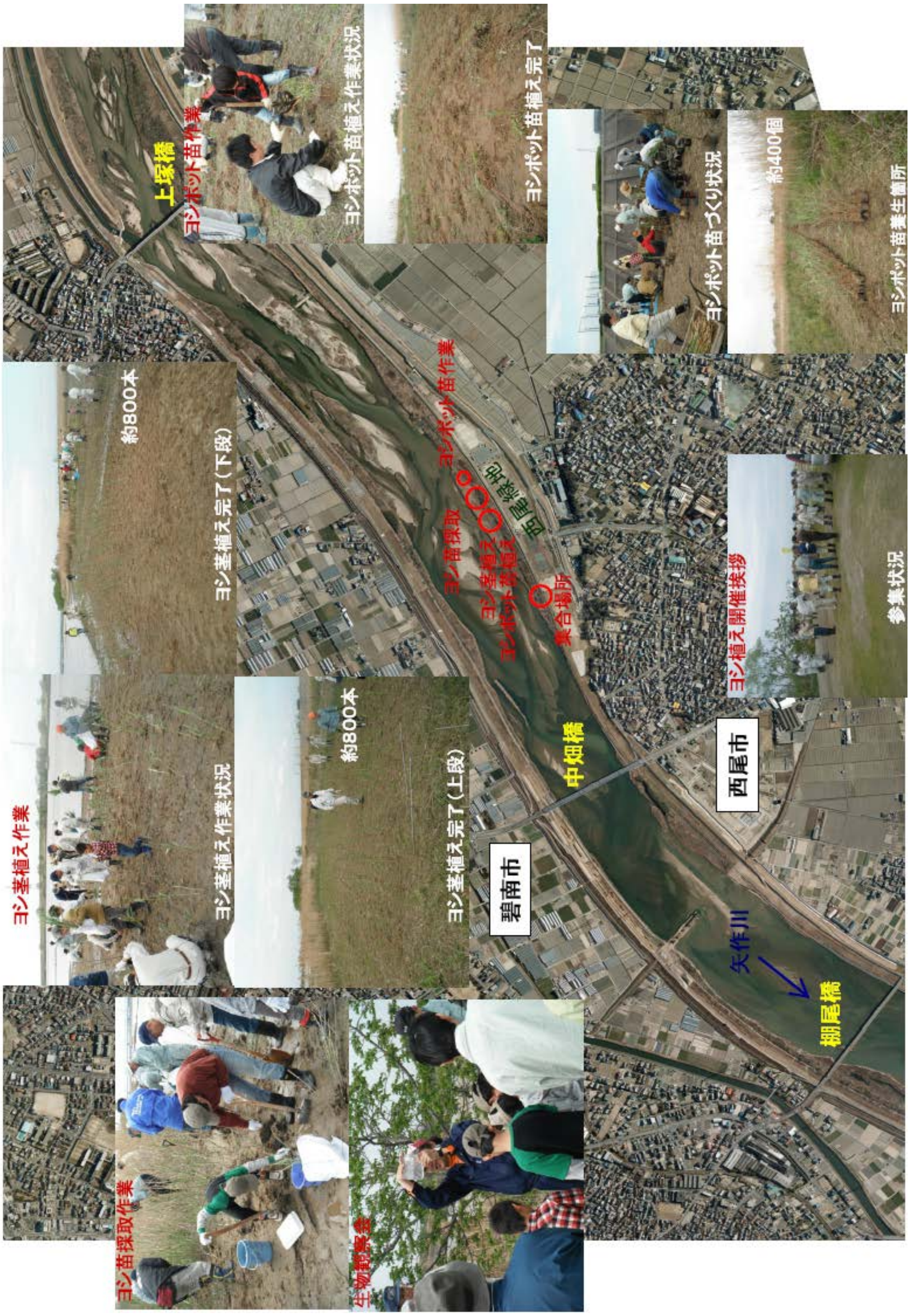
5. これまでの取り組み状況報告

（1）第１回海部会ＷＧ（矢作川河口）：４月 21 日

○　ヨシ原再生の生き物観察会を通じて自然再生事業の必要性を確認できた。

○　干潟再生事業に関する市民の理解を深めるために、近隣の小学校を通じた環境教育の一環とするのが良いのではという提案が出された。

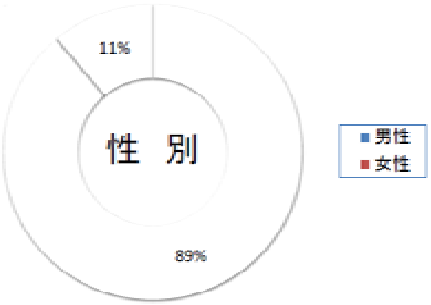
平成 24 年 4 月 21 日（土）　矢作川ヨシ植え作業写真

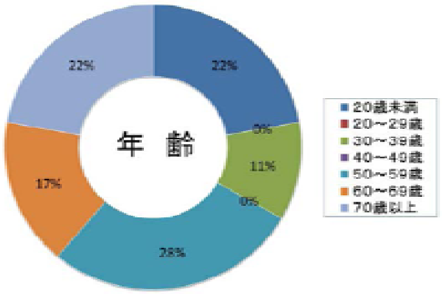


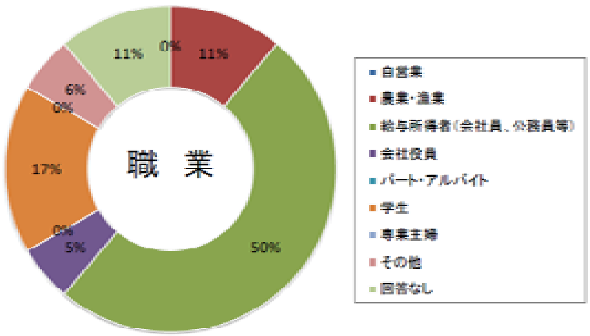
矢作川ヨシ植え参加者アンケート結果（回答数18名）

平成24年4月21日（土）実施
（※当日参加された方によりご記入いただいたアンケートをとりまとめました）

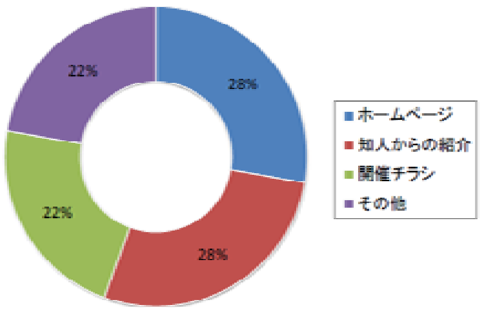
問1．あなたの性別、年齢、ご職業をお教え下さい。



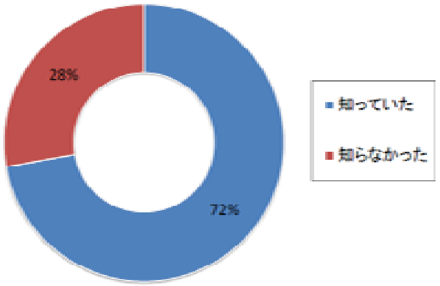




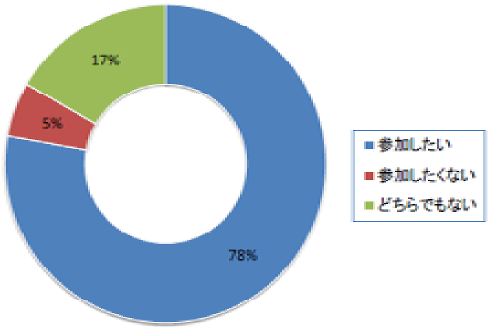
問2．今回の「ヨシ植え」をどのように知りましたか。



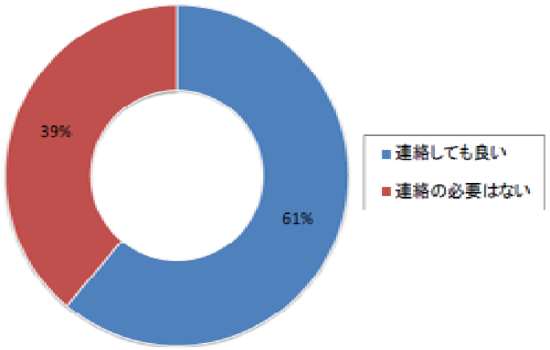
問3．矢作川の河口部において干潟やヨシ原の再生が行われること を知っていましたか。



問4．今後もこのようなイベントがあれば参加したいですか。



問5．今回の「ヨシ植え」した箇所について、今後、生育状況を確認していきます。もいいですか。
また、生育状況の確認にこのようなイベントを予定していますが、連絡してもいいですか。



問7．その他ご意見がありましたら、ご記入ください。

●西尾市の教育委員会を通して、近隣の小学校長に協力を依頼して、児童の参加を募集し、 20～30名の子供が親とともに参加するイベントにしたらどうかと思います。
西尾市教委による環境教育の一環として協力してもらえるように、チラシも児童数配布（近隣校）したらどうでしょうか。
●矢作川がきれいだった。
●楽しかった。
●少し休憩を。

考察

今回のイベントは、矢作川の自然再生事業の必要性を知っていただくことを目的に、ヨシ原再生の一環として、昨年の実施項目に生物観察会、ポット苗植え戻しを追加して実施しました。

問3で矢作川の自然再生事業の認識が、昨年のアンケート結果より増えていたことから、自然再生の必要性も知っていただくことが出来てきていると考えられます。

また、昨年に比べ参加人数が若干減ったこともあり、小学校の環境教育の一環として協力してもらえるようにとの意見もいただいていますので、今後のイベント時の広報の方法についても、検討していきたいと思います。

今後も今回の様なイベントを通じて、矢作川の自然再生事業の必要性を理解していただき、参加された方々や地域の方々と一緒にヨシの生育状況や生物の観察をしながら、自然再生事業を進めていきたいと考えています。

(2) 市民会議海部会 参加報告

～海岸漂着物対策検討会の現地研修会～

海岸漂着物に関する様々な課題に、民間団体と連携して取り組んでいる海岸漂着物対策検討会では、環境団体「22 世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」が開催する「答志島　奈佐の浜海岸清掃」（後援：愛知県のほか環境省中部地方環境事務所、岐阜県、三重県、名古屋市等）への参加を通じて、海岸漂着物の現状確認を行うなど、今後の海岸漂着物対策の検討に活かすため、下記のとおり現地研修会を開催。

- 平成 24 年 6 月 9 日（土）
- 場　所：鳥羽市答志島 奈佐の浜
- 参加者：250 名以上の参加（愛知県参加者は２７団体５４名）
- 実施内容

  （1）海岸漂着物の現状確認及び清掃活動（午前 10 時 40 分から午前 11 時 45 分まで）
  　　奈佐の浜（三重県鳥羽市答志島）

  （2）海岸漂着物に関する講演会の受講等（午後 2 時 50 分から午後 4 時まで）
  　　海の博物館（三重県鳥羽市浦村町大吉 1731-68）

＜講演内容＞

○「鳥羽市海岸漂着ごみの現状」鳥羽市総務課長 中村 孝氏

○「かつて美しかった伊勢湾」 海の博物館館長 石原 義剛氏

鳥羽市の佐田浜港（鳥羽マリンターミナル）出向

桃取港に到着後、徒歩移動（約３km）

１時間の奈佐の浜清掃活動

桃取コミュニティセンター「ふれあい」昼食＆交流会

バスで海の博物館へ移動

鳥羽市や館長などの講演

写真出典：６．９奈佐の浜海岸清掃活動愛知県報告

２２世紀奈佐の浜プロジェクト委員会　愛知県会議事務局

22世紀奈佐の浜プロジェクト

伊勢湾流域を発生源とする流下ゴミは年々増え続け、年間１万ｔを超えると言われています。その２分の１が三重県の鳥羽市に漂着ゴミとして打ち上げられています。なかでも、のり、わかめ、牡蠣などが特産で自然の眺めが美しい答志島に年間数千ｔの漂着ゴミが押し寄せてきます。島の皆さんや漁業関係者は何とかのり網を守りたいと、ゴミを集めますが、拾っても拾っても、次のゴミが押し寄せてきます。しかも、答志島の皆さんは奈佐の浜に漂着したゴミをオイルフェンスで囲って、再び漂着ゴミとなって他の地域に害を及ぼさないようにしています。島の人達の力だけでこの問題を解決するにはすでに限界を超えています。ここに、我々、伊勢湾流域で活動する森・川・海の環境団体も、一つの目標に向け、全員で協力し、行動しようではありませんか。

５年後に奈佐の浜の漂着ゴミの３分の１減
１０年後に奈佐の浜の漂着ゴミの半減
１００年後の奈佐の浜の漂着ゴミゼロ

“奈佐の浜に　伊勢湾に　豊かな海を取り戻そう”

答志島
奈佐の浜海岸清掃

２２世紀奈佐の浜プロジェクトでは、三重県、愛知県、岐阜県の環境団体による実行委員会を設立し、伊勢湾の漂着ゴミの問題を考え行動します。

伊勢湾の漂着ゴミは年間約１万トン、そのうち半分が鳥羽市に漂着することがわかりました。なかでも、のり漁で有名な美しい答志島の奈佐の浜に数千トンのゴミが漂着しています。
東海地域の環境団体の皆様には是非この機会を活用して、いま一度漂着ゴミや、そこに見える地域の環境問題、流域の保全等について考えていただければと思います。

9月8日は奈佐の浜に集まれ!

◆日時　平成２４年９月８日（土）　雨天決行
　定期船運休の場合は９月１５日（土）
◆会場　三重県鳥羽市答志島奈佐の浜、鳥羽市安楽島（海岸清掃は2カ所で行います）
◆内容　★奈佐の浜海岸清掃（一般参加の方）
　・奈佐の浜の海岸清掃　・奈佐の浜シンポジウム（鳥羽小学校体育館）
　★安楽島海岸清掃　（親子参加の方）
　・安楽島海岸清掃　・磯体験　・海の博物館見学
◆集合　① 現地集合　鳥羽市佐田浜市営定期船乗り場　9時30分
　② 三重県四日市庁舎　6時30分
　③ 三重県津庁舎　7時30分
　④ 金山総合駅　6時50分
　⑤ JR岐阜駅団体バス乗降場　6時20分
　⑥ 岐阜県庁　6時40分

海岸清掃位置図

◆解散　集合場所により異なります。現地16時、各県19時頃
◆会費　一般3,000円（現地集合の場合は2,000円）大学生以下は1,000円引
　バス代、定期船代、昼食代、保険代、海の博物館(親子参加の方)入館料を含みます
◆申込み　裏面申込書に記入の上、FAX又は、必要事項をEmailでお申し込みください。
◆定員　各県100名（一般50名、親子50名）
◆持ち物　飲料、雨具（雨天時）、軍手、健康保険証
　※サンダル不可（長靴、濡れても良い靴）

主催：22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会　協力：「美し国おこし・三重」実行委員会
後援：環境省中部地方環境事務所、国土交通省中部地方整備局、三重県、愛知県、岐阜県
名古屋市、鳥羽市、志摩市　他

伊勢新聞　2012年（平成24年）6月10日日曜日（7面）

奈佐の浜 300人が清掃

鳥羽の答志島 東海3県から参加

ペットボトルなど1360キロ回収

奈佐の浜の海岸を清掃する大勢の参加者＝鳥羽市答志島で

【鳥羽】東海三県の環境団体などがつくる「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」（小浦嘉門委員長）は九日、伊勢湾内のごみの多くが漂着する鳥羽市の離島、答志島の奈佐の浜で第一回の海岸清掃を実施した。三県で河川や海岸清掃を実施しているNPOなどの環境団体が連携し、地元も含め約三百人が参加した。

参加者は答志島の奈佐の浜で、海岸に打ち寄せられた流木や漂着ごみなどを拾った。プラスチックやペットボトル約一千三百六十キロが集まった。

続いて桃取コミュニティセンターに移動し、同会の委員長を務める鳥羽磯部漁協桃取町支所の小浦嘉門さんが、流木や漂着ごみが漁師や漁場に与える影響や台風が襲来する前にオイルフェンスなどを張って対策する現状を報告した。

愛知県清須市で「新川をよみがえらせる会」に参加している中村浩さんは、「木材などは上流からの流失を押さえないといけないと感じた」と話していた。また愛知県の事務局を担当する井上祥一郎さんは「愛知でも流木が水産に与える影響が大きい。森、里、海を考えた三県の連携と専門的な情報の共有も必要」と、今後への思いを語った。

同市浦村町の海の博物館では、同会の副委員長を務める石原義剛館長が「豊かな伊勢湾を取り戻すために」と題して講演した。

同委員会の次回の活動は九月八日を予定している。（下村恵美）

中日新聞

2012年（平成24年）6月13日（水曜日）　12版　社会　30

三重・鳥羽

答志島の漂着ごみ清掃

岐阜県が助成金支給

三重県鳥羽市答志島にごみが大量に流れ着いている問題で、岐阜県は十二日、東海三県の環境団体がスクラムを組んで始めた清掃活動に参加している県内の環境団体の活動を後押しするため、本年度に設けた森林・環境税を財源に助成金を出すことを決めた。

答志島では伊勢湾側にある奈佐の浜に、東海三県から流木や空き缶、プラスチックごみが流れ着く。ごみは環境省の推計で年三千トン。

東海三県の約三十の環境団体は二月、五年後にごみを三分の一に減らす目標を掲げて「22世紀奈佐の浜プロジェクト」を立ち上げており、岐阜県の「森・川・海ひだみの流域連携協議会」もこれに参加。県は協議会に約五十万円を助成し、協議会はバスのチャーター代などに充て、九月の清掃活動に県内から百人の参加者を募る。

プロジェクトでは今月九日、答志島に三百人が集まって約三・五トンのごみを集めた。九月にも五百人で清掃活動を行う。プロジェクト事務局長の森一知さん（四四）＝三重県四日市市＝は「答志島に集まるごみは東海三県に住む自分たちが出したごみ。上下流の人たちが掃除を通じて意識を変えれば、ごみはなくなる」と話している。

（3）第２回海部会ＷＧ準備会（豊橋）：７月５日

矢作川流域圏懇談会「海部会ＷＧ」準備会議開催報告要旨

1. 実施概要

(1)実施概要

○実施日時：平成 24 年 7 月 5 日(木)
18:30 ～ 20:30

○開催場所：豊橋市民センター
（カリオンビル）５Ｆ大会議室

○参加者：12 名（事務局含む）

(2)内容

【プログラム】

１．青木座長あいさつ
２．参加者の自己紹介（近況を含めて）
３．平成 24 年度の行動計画とその具体化
４．学識者の変更
５．今年度の各部会の運営方針
６．全体会議の出席者の増減
７．他

会議風景

会議風景

2. 主な会議内容

地域部会ＷＧ準備会議では、今年度の海部会ＷＧの行動計画等に関する意見交換を行った。ＷＧで話し合われた内容は以下のとおり。

- 流木調査については、その状況が発生した際に矢作川水系が一斉に速やかに調査に取り掛かれるよう、調査体制や調査様式を準備する方向で検討を進める。
- 干潟の生き物調査と干潟再生については、健全な状態を示す指標の一般化が難しいため、当面、イベントへの参加などにより情報収集を進めていく。
- アクセス調査については、８月中の貝堀などが行われている間に利用実態などを把握する調査を行う。
- 漁協との連携は、潮干狩り客が増えるなどの漁協にもメリットがある活動の取組みや宣伝効果がないと難しい面もある。当面、先進的に取り組まれている東幡豆漁協の取組みを学びながら検討を進める。

（4）第３回海部会ＷＧ（東幡豆海岸・前島）：７月７日

○　干潟の環境学習としては、自ら採った生物と環境について学んだ。

○　参加者を楽しませる工夫においては、触れて、味わう事が重要。特にここは、マテガイという二枚貝が多く採れることから参加者の楽しく採取が行えることへの満足感は大きい。

出典：伊勢・三河湾流域ネットワーク HP

（5）海の観察会参加報告（事務局）（東幡豆海岸・前島）：７月 21 日

○ スムーズなイベントスケジュールの進行管理を確認できた。

○ また、参加者の感想を聞く事で市民として何ができるかや多様な面からの意見を聞きだすこと等ができていた。

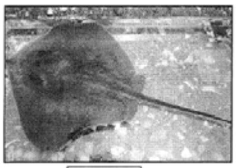
干潟の生きもの観察会 in 東幡豆 スケジュール

平成 24 年7月 21 日（土）

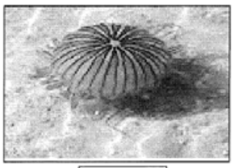
時 間	内 容	場 所
10：30～11：00	船で前島へ移動	東幡豆港～前島休憩場
11：00～11：10	開会あいさつ	前島休憩場
11：10～11：30	干潟の生きもの講座	
11：30～12：30	干潟での生きもの採取	前島と東幡豆海岸の干潟
12：30～13：30	昼食、自由時間	前島休憩場など
13：30～14：20	生きもの観察調査 干潟等の役割の講話 意見交換	前島休憩
14：20～15：00	アンケートの記入 船で東幡豆港へ移動	前島休憩場～東幡豆港荷捌き施設
15：00～	閉会あいさつ	東幡豆港荷捌き施設

注意事項

・乗船の際には船員またはスタッフの配布する救命胴衣を着用ください。
・水分補給をこまめに取るなどし、熱中症には十分ご注意ください。
・貴重品の管理は自己責任でお願いします。
・岩や貝殻等で足を切る可能性があるため、裸足やビーチサンダルなどの脱げやすい草履で海に入らないでください。
・１２：３０～１３：３０の昼食時間はフリータイムとなりますので、干潟で生き物の採取等、ご自由にお過ごしください。
・アカエイ、アカクラゲは刺される可能性がありますので、発見した際には素手では触れないでください。



アカエイ



アカクラゲ

試験場岩田漁場環境研究部長の説明

採取生物の確認

（6）その他 参考資料「海地域で開催されたイベント・開催予定のイベント等」の収集情報

（実施済のプロジェクト）

出典：伊勢・三河湾流域ネットワーク HP

（実施済のプロジェクト）

「干潟の生きもの観察会」in東幡豆

～三河湾環境再生プロジェクト～

　里海において干潟は、多様な生きものが生息する身近な水辺であり、水質浄化機能を有している大切な場所です。
　このたび、愛知県では、三河湾環境再生プロジェクトの一環として、干潟の生きもの観察会（里海調査）を東幡豆海岸及び前島（西尾市東幡豆町）にて開催します。
　みんなで身近な三河湾の干潟を観察しませんか。

１．開催日時
　平成２４年７月２１日（土）　１０時３０分から１５時００分まで

２．開催場所
　東幡豆海岸及び前島（西尾市東幡豆町）
　※集合場所：東幡豆漁業協同組合前島渡船乗場前
　　　　　　（西尾市東幡豆町浦和）
　※受付時間：１０時００分～１０時３０分
　※渡船乗場～前島の間は、往復とも船で移動します。

前島行き渡船

３．干潟の生きもの観察会内容
（１）干潟講座
　・水産試験場研究員の解説による干潟や浅場の役割講座
（２）干潟の生きもの観察
　・前島の干潟にて生きものの採取及び調査
　・採取した生きものを基に、水産試験場研究員及び東幡豆漁業協同組合組合長により干潟の生きものとその役割について解説
（３）アサリ試食
　・地元で採れたアサリを試食し、里海の恵みを体感（昼食時）

４．募集対象及び募集人員
（１）募集対象
　３歳以上の方（小学生以下の児童は保護者が同伴してください。）。
（２）募集定員
　４０名（同伴者含む）応募者多数の場合は抽選。抽選結果は後日連絡します。

５．参加費
　無料（集合場所までの交通費については各自のご負担でお願いします。）

６．アクセス
　名鉄蒲郡線東幡豆駅より徒歩５分

観察会の様子

７．その他
・天候により日程の一部を変更する場合があります。
・観察会当日は昼食をご準備ください。
・帽子、タオル、飲料水等の暑さ対策は各自でお願いします。
・裸足やサンダルで海に入ると、貝などで足を怪我することがありますので、観察会へは濡れても良い靴や長靴でご参加ください。

出典：愛知県 HP

（実施済のプロジェクト）

自然観察会

【春の磯と干潟を観察しよう】

（三河湾環境再生プロジェクト）

三河湾に浮かぶ竹島は、島全体が常緑樹林に覆われ、周辺の海辺には磯や干潟が広がっています。これらの自然を海辺に視点をおいて観察します。

開催場所　竹島海岸（蒲郡市）

日　　時　平成２４年５月６日（日）

９：３０から１２：００頃まで

集合場所　海辺の文学記念館前広場

９：００から受付

◇予約の必要はありません。当日現地へお越しください。
◇雨天でも警報が出ていなければ開催します。
◇衣服は動きやすい服装、はきなれた滑りにくい靴で。（磯と干潟にも入ります）
◇大人の方は、保険料等に１００円御協力ください。

問い合せ　岩瀬直司　TEL0532-45-9111

主催：ＮＰＯ法人東三河自然観察会

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www5c.biglobe.ne.jp/~kajino/

※この観察会は、「あいち森と緑づくり事業」の助成を受けています。

NPO法人
東三河自然観察会

出典：NPO 法人　東三河自然観察会

（実施済のイベント）

2012年　おさんぽかんさつ会

矢作川の河口で春を感じよう！

矢作川の河口の干潟で生き物観察をします。
カニや貝の仲間など何が見つかるかは当日のお楽しみ！
またゴミ拾いを通して環境について考えます。

とき　5月6日（日）9:30～11:30

ところ　矢作川河口（碧南市）

★集合場所(駐車場)：矢作川大橋下流側(約 400m)の河川敷
前浜公園付近です。
集合場所へは直接お集まりください。

集合場所（駐車場）

申し込み方法

★受付期間：4月6日(金)　9：00～前日まで

★定員：ありません

★参加費：<u>無料</u>

★電話または直接、水族館事務室まで
お申込み下さい。

■持ち物：筆記用具、水筒、帽子、軍手(ゴミ拾い用)、
あれば長靴・スコップ・熊手・観察ケース

■服　装：動きやすい・汚れてもよい服装でおこし下さい。

■その他
・小学生以下のお子様は保護者同伴でご参加下さい。
・雨天・悪天候時は中止します。
・観察中の事故に関しては、簡単な応急手当ては行いますが、それ以外の責任は負いかねます。
・駐車スペースが限られていますので、お車でお越しの方はできるだけ乗り合わせでお願いします。

【お問い合わせ】
観察会の申し込み、質問などは水族館事務室までお問い合わせください。
碧南市浜町2番3　TEL:0566(48)3761
碧南海浜水族館
碧南市青少年海の科学館

共催:スナメリを守る会

出典：碧南海浜水族館ＨＰ

（7）その他 参考資料「海地域開催予定のイベント等」の収集情報

矢作川をきれいにする会事業計画案

第３号議案

平成２４年度矢作川をきれいにする会事業計画（案）

予定月日	事　業　名	事　業　内　容
4月　6日	第１回役員会	総会の準備、打合せ等
4月26日	総会	事業計画、予算及び役員選出等について
5月下旬	山の子潮干狩り招待	長野県根羽村、平谷村、岐阜県恵那市串原小学校
6月上旬	第１回公害パトロール	矢作川中流域（西尾・栄生・味沢より各２名）
7月下旬	三河湾浄化啓発活動	市内のスーパー店頭において啓発活動
8月上旬	第２回公害パトロール	矢作川上流域（一色・衣崎・佐久島より各２名）
8月下旬	第２回役員会	下半期事業打合せ
9月中旬	矢作古川清掃活動	矢作古川ごみ拾い
9月下旬	海の生き物探検隊	干潟や海の生き物観察会
10月中旬	第３回公害パトロール	矢作川中流域（うなぎ・吉田・吉良より各２名）
10月下旬	アクション油ヶ淵参加	研究発表会参加
1月中旬	第４回公害パトロール	矢作川下流域（会長、西幡豆・東幡豆より各２名）
その他	・必要に応じて役員会の開催	

三河湾環境再生シンポジウムの募集情報

平成24年6月19日（火）
愛知県環境部水地盤環境課
調査・計画グループ　担当　大矢、谷口
内線 3042、3044　（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）052-954-6220

三河湾環境再生シンポジウムの開催決定と発表団体の募集について

（三河湾環境再生プロジェクト －よみがえれ！生きものの里“三河湾”－）

愛知県では三河湾の環境再生に向けた取組の機運を高めるため、「三河湾環境再生プロジェクト」を実施しております。このプロジェクトの一環として、滋賀県の嘉田知事をお招きし、講演や大村知事との対談、そして、滋賀県内及び愛知県内で環境再生の取組を行っている NPO 等の活動事例の発表や交流を行うシンポジウムを開催します。

また、そのシンポジウムにおいて発表・交流していただく、愛知県内の団体を募集します。

1　シンポジウムの概要について

ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ名：「三河湾環境再生シンポジウム－琵琶湖とともに三河湾を考える－」
開催日時：平成24年8月18日（土）　午前11時から午後４時頃まで
開催場所：豊橋市公会堂（豊橋市八町通2-22　TEL(0532)51-3077）
主　　催：愛知県
共　　催：滋賀県

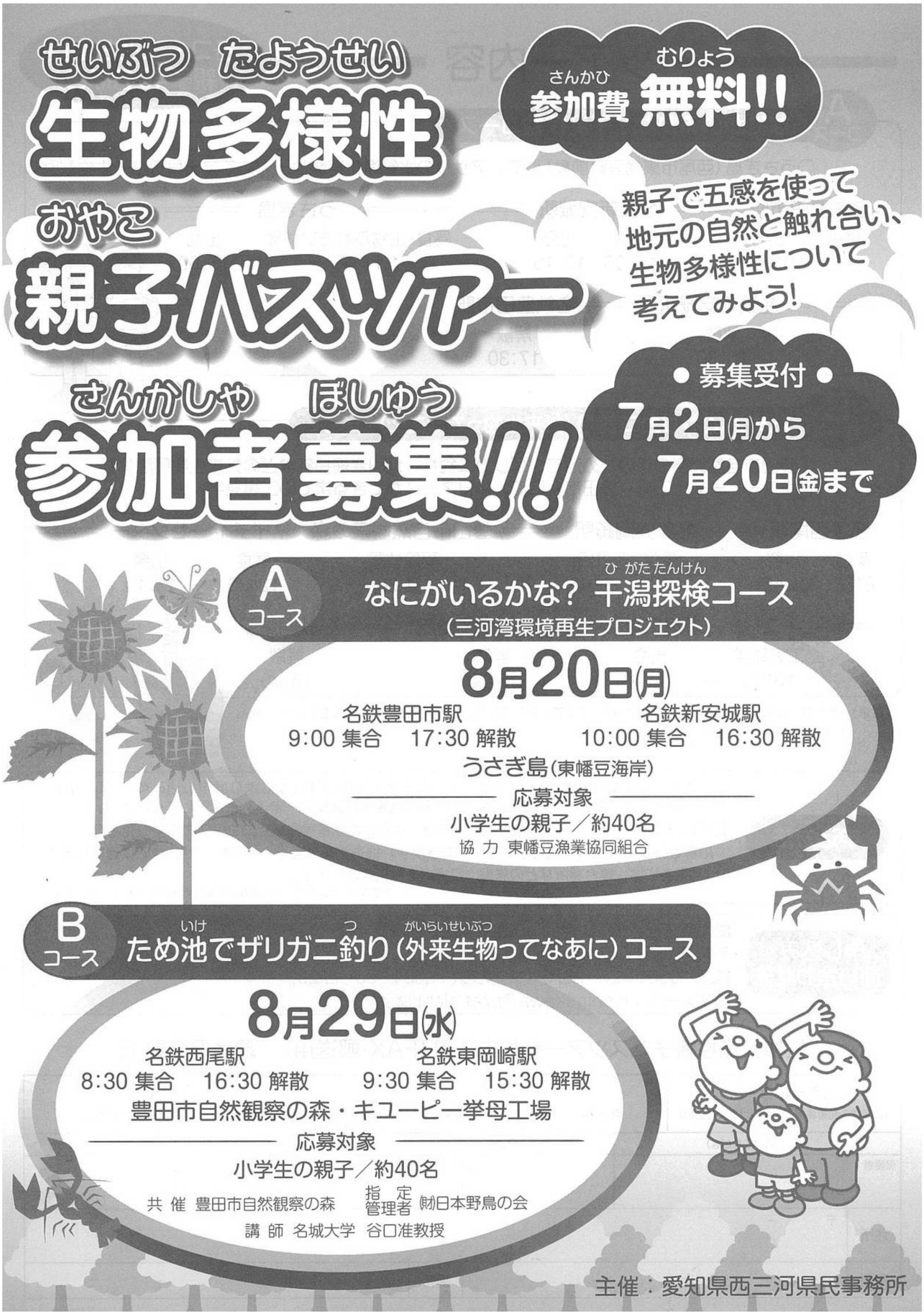
第１部（午前）	ポスターセッション（パネル展示及び説明） 【NPO等の発表・交流】愛知県・滋賀県NPO等
第２部（午後）	【基調講演】嘉田知事 【活動事例発表】愛知県・滋賀県NPO等 【知事対談】嘉田知事、大村知事

2　発表団体の募集について

（１）発表内容と発表団体数

	発表内容	発表団体数
第１部（午前）	各団体の活動状況などを紹介するパネル展示と発表・交流を行っていただきます。 （展示スペースは会場の都合上、「展示板2m×2m程度」とさせていただきます。）	愛知県：15 団体程度 （滋賀県：調整中）
第２部（午後）	活動事例を舞台で発表していただきます。	愛知県：第 1 部の団体から２団体程度を選定 （滋賀県：調整中）

※　発表資料等は各自で作成してください。



出典：愛知県ＨＰ「三河湾再生プロジェクト」